



第 35 回

第 18 回街づくりに関する夢・アイデア 60 の提案を楽しむ

令和 2（2020）年 1 2 月

いつ終息するともしれないコロナ禍、球磨川洪水など毎年襲ってくる自然災害。WITH コロナ、WITH 災害の暮らしを強いられている毎日だ。夢に見た海外旅行にも行けない、みんなで歓声を上げる飲み会や集まりも「3密」でダメ。心折れ、閉じこもっている毎日かと思いきや、どっこい、市民の夢とアイデアは「若鷹」のように、たくましく翼を広げて大空を舞っていた。応募された夢とアイデアはコロナ禍をものともせず 60 篇、予想を超えた多さだった。思わず膝を叩く夢やアイデアが多く、読みながら心が弾んだ。

確かに、コロナ禍で制約の多い毎日となった。街ゆく人は誰も、白覆面の鞍馬天狗のようにマスクで顔を覆って、正体不明。ソーシャルデスタンスで握手して挨拶も出来ない。海外旅行の夢は、しばらくは我慢するにしても、ウォーキングで身近で新しい発見を楽しめる。『3密』を避け、散歩するコースにある樹木に名前を付けて、新しい友人として付き合う。幹に耳を当てその鼓動を聞く、太い幹とは突き押しの相撲、傾いた気があれば「倒れるな」と両手、全身で支えてやる（提案・街の木々を命名して、街に夢を）。いやはや、WITH コロナを楽しんでいますな。

世間遺産という言葉がある。人類の財産である世界遺産に対して、身近な世間遺産は、街を歩きながら地域の珍しい風物、意匠、建物、風景、民俗文化などを何気ない日常の物から宝を発見するウォーキングが大分を中心にジワリと広がっている。発見には町への、身の回りへの好奇心、観察眼が必要だ。今回の応募作品にはそんなわが町の発見を元にしたものが多かった。「垣根選定隊」「運動器具のあるウォーキングコース」「大好きな川で遊ぼう」などなど。

何もコロナが猛威をふるう海外に出かけなくとも、身近に世界遺産は楽しめる。『神宿る島』宗像・沖ノ島とその周辺海域は神域とされているため遠くから遥拝しかできないが、大島は宗像神社中津宮があり、自然豊かなこの島にキャンプ場、スポーツ施設、公園、おしゃれなカフェなどを提案「自然豊かで人が密集しない」観光地とするアイデア。また「里山里海イニシアティブ」は福岡県・糸島半島で海と山のつながり、自然の恵みを楽しむ暮らしに注目、観光と質の高い生活の両立を目指す提案だった。いずれも福岡都市圏近郊で、実現可能な夢であり、明日にでも出来るアイデアに思える。

その福岡都市圏住民がすっかり忘れていることがある。自宅の水道からほとぼしり出る、命の「水」を遠く筑後川の水に依存していることだ。蛇口をひねればおいしい水が出る、その水源が上流の水源地、水源林にあるこ

と、昭和五三年福岡大洪水でお世話になったことをすっかり忘れていた。『都市住民による水源林環境保全への整備協働の試み』は市民啓蒙へのスタートラインなのだ。

夢アイデアの提案で、すっかり常連となった鹿児島の子供たちからも「みんなで LET,ウオーキング」があったり、『公園アスレチック化』で、元気の輪を広げよう、の提案もあった。彼らは、必ずや鹿児島・地域おこしの主役となるだろう。

電車・バスに乗っても、つり革を握れず、トイレに入っても指でボタンを押すのをためらう。それでは「足でボタンを押せる装置」はどうか（提案・風邪をひかない街）。逆境をものともしない発想の数々が楽しかった。

元気を出す、提案で今年目立ったのが、阿蘇住民からの夢とアイデアだった。熊本地震でシンボルの阿蘇大橋が落橋、基幹道路の国道 5 7 号が大規模な山腹崩壊で埋まり、九州最大の観光地・阿蘇地方は訪れようにも、行けない状況が続いてきた。ようやく新しい阿蘇大橋が完成間近となり、外輪山を貫くトンネルもでき、土砂に埋まった国道も復旧、開通した。世界に誇るカルデラ、阿蘇五岳と草原の壮大な景観と湧き出る水、温泉。阿蘇の夢とアイデアはふくらみ、広がっている。『阿蘇の高原列車構想』『草原コンサート』など、夢は広がっている。

しかも「人を呼び込むのも大切だが、来ていただいた人が満足して、再び、楽しむ阿蘇」を目指して活動している「内牧新町環境整備隊」は夢実現に向けて草刈りや草原再生、減反田の草や木など月数回の地道な活動の積み重ねで、阿蘇再生の夢を一步一步実現しようとしている。

同じ『阿蘇内牧「湯浦郷」の里山原風景を』は阿蘇での暮らし、祭り、自然を細かく観察、再発見して『阿蘇の地こそ、文化景観に相応しい』『平成二四年の災害で至る所山崩れが起きた。今後も崩落は続くと判断する。危険個所の伐採を行い、元の草原再生することが』村の原点だと強調する。その原点からの地道な活動が、きっと阿蘇を再生させる、と信じている。阿蘇の魂から湧き出る夢アイデアこそが阿蘇の未来を造る原動力なのだ、と。（夢アイデア審査委員長）

今回が私の最後の審査となりました。建設の専門家集団・建設コンサルタンツ協会が、市民目線を大切にこの夢アイデア事業がより一層、人々の夢の力、アイデア・発想を豊かに育て、充実した事業となって、街に元気をもたらしてくれることを願っています。

玉川 孝道（西日本新聞元副社長）

夢アイデア審査委員長（平成 22 年～令和 2 年）